令和３年度　学校評価表

島根県立吉賀高等学校

めざす生徒像～地域・社会に貢献できる人材（財）の育成～
１　地域の様々な人と交流し、力を合わせることができる ２　地域の環境資源を活かした学びを基に自分と向き合う ３　地域の現状を知り、ふるさとの未来に向けて行動できる ４　地域の中で学ぶことにより、広い視野を身につける

教育目標
１　自他を尊重し、他者と協働できる人間の育成 ２　当事者意識を持ち、粘り強く挑戦する人間の育成 ３　答のない課題を解決するために行動する人間の育成 ４　広い視野に立ち、未来を想像・創造できる人間の育成

	評価項目	重点目標	具体的施策	主資料	自己評価（昨年度）	取組状況と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見	改善策
1	学力の向上	基礎基本の定着と学習意欲の向上	個々の生徒に対する、効果的な教科指導 ・学習支援と学習評価 ・教師の授業力の向上	教務評価 生徒・保護者評価	3 (3)	・今年度も国英数の習熟度別授業や特別指導を通して、それぞれの学力層へ効果的な指導を展開した。また、少しずつではあるが、ＩＣＴ活用に堪能な教員のリードにより、今後のオンライン授業に対する準備や心構えをすることができた。 ・今年度も「思考力や判断力を身につけさせる授業」を主題として、ほぼ全ての教員が公開授業を実施した。教科主任会では、来年度からの新学習指導要領下での教育課程の内容について検討したり、新たな評価方法について他教科から情報をもらいながら検討することができた。 ・今後は、指導者用ＰＣを活用した授業改善とオンライン授業への対応力を高めることが求められる。また、学習評価については、各教科で検討したものをシラバスにまとめる必要があるので、叩き台となる資料作成を急ぎたい。	4	・生徒からもきめ細かい学習指導を行ってもらっているという声をよく聞く。今後もさらに個に応じた支援をお願いしたい。 ・英語検定等、資格取得に取り組む生徒も増えている。そのような生徒の学力向上意欲を高めるべく、町行政へも検定補助制度の設立をよびかけることに協力したい。 ・次年度、１年生から随時一人一台端末が導入されていくが、コロナ禍で進展したＩＣＴについて、さらに有効に活用できるよう研究してもらいたい。 ・生徒の進路や夢を叶えられる教育体制や環境づくりにしっかり取り組んでおり、地域内外の学校に対する評価は高まっている。	・シラバスの作成を通じて、生徒の学習活動とその評価方法について考え、各科目で設定した学習目標に到達できるようにする。 ・指導者用ＰＣの活用を促すため、来年度の授業公開は年間のテーマに関わらず「指導者用ＰＣの活用」を条件として設定することを考えたい（ちなみに今年度のテーマは「思考力と表現力を引き出す授業」）。 ・必要に応じて、ＩＣＴに関連した内容や新学習指導要領についての校内研修を実施する。
			本校の新しい教育課程の編成 ・新学習指導要領の研究 ・サクラマス・プロジェクトに基づく授業改善と教育課程づくり	教務・学年評価	3 (3)		3		
2	基本的生活習慣の確立	自主的・自律的生活態度の育成 社会人基礎力の育成 （学校はよい習慣を身につけるところ）	生徒との信頼関係構築と協働 ・挨拶、声かけの励行	生指・生徒・保護者 地域評価	3 (3)	・身だしなみ指導や昼食指導の日々の観察により、概ね多くの生徒が規律を守りつつ、落ち着いた学校生活を送ることができた一方、個別には生徒間の人間関係トラブルもあった。生徒の変化の察知やトラブルの未然防止のため、教員間での情報の共有をよりいっそう充実させていく必要がある。 ・身だしなみやスマホ利用の仕方などルール作りに課題がある。 ・町外・県外生徒への指導体制も、各部署からの協力・支援に基づき整いつつあるが、寮での生活など様々な課題が残っている。 ・定期的ないじめ防止委員会や生徒支援委員会よって、配慮の必要な生徒の情報共有が図られ、外部機関と連携をとりながら生徒の課題に組織的に対応することができた。	3	・町民とコミュニケーションを取ろうとしてくれる生徒が増えた。地域と協働するアントレプレナーシップ教育活動等の成果だと思う。 ・教職員が積極的に生徒に関わっており、学校全体で生徒を支援するカウンセリング機能が行き届いている。 ・教職員が生徒と協働し、生徒の意見も取り入れながらルールの見直しに取り組んでいくことは大切であるように思う。	・ＱＵアンケートや安全安心アンケートの実施により、生徒の内面の不安などを把握し、問題の早期発見や未然防止を進めていく必要がある。また、心身の不安定な生徒に対する継続的な観察や支援など情報共有と共通理解を一層深め、組織的な対応を目指していく。 ・身だしなみやスマホ利用に関する新たなルールづくりを生徒会とともに検討する。 ・全教職員で積極的に生徒に関わり、生徒一人ひとりが学校・地域社会の担い手という意識を高め、さわやかな学校生活、交流センターでの生活が送れるよう指導していく。 ・組織的に対応できるよう体制の整備を行うとともに、生徒指導部内や学年会との情報共有を行い、適切な対応ができるようにしていく。 ・ＱＵアンケートの有効活用方法について検討していく。
			自律的な生活態度の育成 安全・安心な学校環境の整備	生指・生徒・保護者 地域評価	3 (3)		3		
			教育相談活動の充実 ・必要な生徒への個別支援	生指・保健評価 生徒・保護者評価	4 (3)		4		
3	部活動・学校行事の奨励	部活動の活性化	積極的参加の奨励 ・地域活動への参加	生指・学年評価 地域・保護者・生徒評価	3 (3)	・多くの生徒が部活動に加入し、日々の活動に積極的に取り組んでいる。また、コロナ禍で活動に制限もあったが、地域クラブを中心に地域の活動やボランティア活動に取り組むことができた。 ・生徒会役員を中心に学校行事や生徒会活動が行われ、彼らの独創性や自主性が発揮された活動ができた。生徒会生徒とコミュニケーションを図り、さらに自主、自律的な活動を促したい。	3	・コロナ禍で制約もある中、ＳＤＧｓに関する新たな取り組み、吉賀町未来戦略検討会議や町長ランチミーティングに参加したりするなど、生徒会を中心に意欲的に活動を行っている。今後、地元に密着した地域行事へ参加する生徒がさらに増えることを期待したい。	・部活動への積極的な参加を奨励していく。地域クラブの活動では、活動を体系化させ、より多くの生徒が地域クラブのメンバーとして活躍できるよう支援していく。 ・生徒会活動や学校行事について例年にとらわれない計画を立てさせ、自主自律的態度を育てる場としていく。一部の生徒に負担が偏らないように、他の分掌や学年会との連携を密にし、生徒一人ひとりに役割を与え、健全な心身を育てる活動へとしていきたい。 ・生徒会の任期や組織体制について検討していく。
		生徒会活動の活性化	学校行事の活性化 ・集団としての教育力の形成	生指・学年評価・生徒評価	4 (3)		4		
4	進路指導の徹底	キャリア教育（サクラマス・プロジェクト）の充実と進路目標設定の支援	キャリア教育の充実	進路・教務	3 (4)	・総合的な探究の時間で学習した内容を大学での学びにつなげる生徒が数名いた。また、身につけた「学ぶ姿勢」を多数の生徒が面接試験で発揮することができた。 ・進路検討会やＨＲを通して、生徒の進路志望を共有し、助言や進路情報の提供を行った。３年生については、教員全員で個別にきめ細かい指導を行った。 ・模試解説補習は生徒の模試の振り返りを行う姿勢を習慣づけるだけでなく、教員の教科指導力の向上にもつながっている。今年度は、一般選抜で大学入学をめざす生徒も例年になく多く、とてもよい作用をもたらした。 ・３年生は３年間という時間の中で勉強に向かう姿勢や社会人の資質を身につけた。本校で育てたという自負を持っている。	3	・進路志望を実現させた多くの３年生を見ても、３年間を通じてきめ細かく個に応じた指導を行ってくれていることが見て取れる。今後も教員全員で引き続きしっかり対応してもらいたい。 ・総合的な探究の時間で学んだ内容をさらに大学へ進学して深めたいと考える生徒や、アントレの活動を通して地域との繋がりを深めたことから吉賀町にさらに貢献したいと強く思ってくれる生徒が増えていることを嬉しく思う。	・教務部や生徒指導部と連携して、学力保障や資質保障を行い、進路保障を実現させる。またアントレプレナーシップ教育担当とも連携し、高校時の学びを大学での学びにつなげようとする生徒の支援を行う。 ・模試解説補習は継続して行うが、より効果的・魅力的な内容の補習となるように各教科への働きかけを行う。３年生は授業で演習が十分行えない科目の補習を増やすなど現実を見据えた補習も行う。 ・進路ガイダンスや進路別説明会を適宜行い、低学年から進路選択を意識できる仕掛けづくりをする。HRに進路指導を行う時間を確保し、低学年から進路目標を持たせるきっかけを作る。
			適切な進路情報の提供	進路・学年評価 生徒評価	3 (3)		3		
		進路実現への支援	補習・放課後学習会等進路実現のための支援	進路・学年評価 保護者・地域評価	3 (3)		3		
			進路検討会・模試分析等による担任支援 各学年会との連携による生徒の進路情報の共有化	進路・学年評価 生徒・保護者・地域評価	4 (3)		4		
5	人権教育の推進	互いの人権を尊重する人間関係づくり・集団づくり	HRでの指導の充実 他者の尊重、教職員による人権意識高揚の働きかけ	人権教育評価 学年評価	3 (3)	・学年部で指導案を作成したことで生徒の現状に応じた授業が実施できた。 ・今年度は人権教育ＨＲの合評会と教職員研修とを兼ねたことで全教職員で公開授業を振り返ることができた。 ・安全安心アンケートや生徒支援委員会などを通して教職員が連携して、生徒間での言動や行動把握に努めた。 ・人権教育全体計画の再編成について、全教職員で取り組んだ。	3	・町と連携した人権教育講演会を開催し、中高生にとって必要な情報モラル・ネットリテラシーなどについて考える機会を設けたことは評価したい。 ・生徒の現状・実態に即した授業づくりを意識し、今後も意欲的に新しい取り組みを取り込んでいってもらいたい。	・校内での人権教育ＨＲは、学習指導案を今の生徒に対して必要な内容について学年会で検討しながら作成し実施する。その際、過去の指導案の内容を一覧にしたので利用してもらいたい。今年度同様、町内中学校、町役場の皆様への案内を継続し、町内との人権教育の連携をさらに深めていく。 ・生徒たちが安心･安全に生活するために、集団生活に必要なルールやマナー、人権意識を身につけることができるよう教職員で連携し、指導案にも盛り込んでいきたい。
			教職員研修の充実	人権教育評価	3 (3)		3		
6	中高一貫教育の推進	サクラマス・プロジェクトと連動した中高連携の実施	・めざす生徒像の実現に向けた活動の推進 ・推進重点事項の設定と実施	中高一貫教育ｱﾝｹｰﾄ	3 (3)	・サクラマスプロジェクト第二期と連動した保小中高連携という理念に基づき、アントレプレナーシップ教育を中心とする実践が数多く展開された。 ・各教科部会において中高一貫教育推進重点項目に掲げた「思考力・表現力」の育成をしっかり意識し、実際に異校種体験の機会等を通じて中高教員が連携して授業づくりを行った。 ・コロナ禍により中高職員会議等の開催が難しい中、ＩＣＴを活用し、「中高一貫教育を展開する意義」や「新学習指導要領におけるキャリア教育」について中高教員が共に考える機会を設定し、共通理解を深めることができた。	3	・オンラインを通じてでも中高教員が一堂に会し、中高連携の意義を確認する機会を持つことは重要である。 ・ＩＣＴ推進や新学習指導要領の対応などの面からも、中高教員がお互いに情報交換しながら、中高一貫教育のめざす生徒像実現に尽力してもらいたい。 ・コロナ禍で難しい面もあるが、中高生徒同士の交流が活発になるとよいように思う。まずは生徒会・部活動等での連携が進むことを期待したい。	・授業訪問、アントレやふるさと学習の協働等積極的に企画し、双方の学びにつなげていく機会をさらに増やしたい。 ・保小中との連携をさらに深め、様々な機会において「声をかけてもらえる／活かしてもらえる」吉高生をめざす。 ・今後も中高一貫教育合同職員会議の機会に講演会や研修会を企画し、「社会に開かれた教育課程」や「教育魅力化」の理解と推進を図る。 ・保小中と連携しながら吉賀町の教育課題に協働でアプローチし、町全体の学力向上を図ると共に、吉高進学者の確保をめざす。
7	魅力と活力ある学校づくり	サクラマス・プロジェクトと連動した活動の実施	町・外部機関と連携した活動の推進	生指・総務評価 生徒・保護者・地域評価	4 (4)	・アントレプレナーシップ教育について、地元でのフィールドワークでは町や外部機関と協力して活動することができた。また、青山学院大学・法政大学の大学生と連携し、オンラインではあったが全国の企業や団体を対象にフィールドワークを行った。昨年に引き続き、コロナ禍で東京実習ができなかったため計画の変更を余儀なくされたが、生徒は代替プログラムに熱心に取り組んだ。 ・毎月学校だより「めたせこいあ」を発行し、生徒及び町内の全世帯に配布しており、ＨＰ、ＦＢなどのメディアも活用し情報発信を行っている。コロナ禍で地域の活動やイベントが少ない中、アントレや地域クラブの活動など生徒の活動を積極的にＰＲしていきたい。	4	・アントレ発表会をみても、自分の言葉でしっかり語ることができており、自分らしさを発揮して地域で新たな価値を生み出そうとする姿勢がしっかり見受けられた。 ・コロナ禍のハンデを乗り越えて、青山学院・法政大学との高大協働研究も停滞することなく、全国オンラインＦＷなど新たな探究活動の可能性を見出したことを評価したい。 ・サクラマスプロジェクトを意識しながら小中学校の総合的な学習の時間と高校での探究学習がさらに有機的に結び付いていくことを期待したい。 ・最近、メディアに吉賀高校の教育活動が数多く取り上げられており、活躍の様子をみることが楽しみである。	・アントレプレナーシップ教育をサクラマス・プロジェクトの中心に据え、小中高の連携強化に努めていく必要がある。そのために地域の方々、町役場、町教委、ＰＴＡ、生徒の意見をまとめ効果的な教育プログラムとして醸成していきたい。 ・しまね留学をきっかけにケーブルテレビで特集番組が放映されたが、ＨＰやＦＢだけでなく、テレビや新聞など外部の媒体への働きかけを強め、効果的に情報発信していかなくてはならない。
		学校の情報を地域・保護者に十分に伝える	・学校だより紙面の充実 ・HPの更新	総務評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		
8	学校安全管理	危機管理意識の高揚と安全な生活環境の確保	防災避難訓練の計画的実施	総務評価	3 (3)	・３年生アントレ防災班のメンバーが中心となり、防災避難訓練を行った。教員主導だけでなく、生徒の目線からの活動が行えた。 ・夏のゲリラ豪雨の経験を通して、２学期の防災避難訓練では土木事務所の方に来て頂いて講話を行った。火災・地震・土砂災害など様々な観点からの避難訓練を実施していく必要がある。	3	・生徒自身が自分たちでできることをしっかりと考えながら取り組んでいく姿勢が、学校安全管理における面でも見受けられる。教員主導でなく、生徒と共に防災意識を高める取り組みを今後も続けてほしい。	・年間計画の段階で、実施時期と内容の検討を重ね、より訓練の効果が高められるように工夫していきたい。
			安全点検の計画的実施	生指評価 生徒・保護者・地域評価	3 (3)		3		

【評価】　４：十分達成できた　　３：概ね達成できた　　２：やや不十分であった　　１：全く不十分で達成できなかった